

## 心臓超音波テキスト 第2版

日本超音波検査学会監修  
増田喜一・遠田栄一編著



「心臓超音波のトレーニングを始めるにあたり、どれか1冊推薦して下さい」と相談を受ければ、躊躇なく本書を推薦する。7,600円(税別)という価格は、内容からいえば明らかに安い。当部署では、数多の超音波検査関連の技術書を所蔵するが、そのなかで1冊だけ多くのスタッフに毎日扱われてポロポロになっている書籍がある。『心臓超音波テキスト』(第1版)である。数カ月前に購入した本書も、当院の技師や若手医師にも支持され、すでに表紙はよれてきている。

ダイナミックに動く心臓の画像診断のなかで、超音波検査ほど形態と機能を同時に評価できる検査はない。ただし、検査技術の習得のみならず知識の習得も重要課題である。本書は、技術と知識の両面で充実した内容となっている。第1版は、専門分野の医学書としては異例の3万部をこえるベストセラーである。心臓超音波検査の進歩は速く、今回の第2版出版までの8年という歳月のなかで、すでに一般的となった評価法のいかに多いことか。また、循環器診療においても新しい治療法が次々と導入され、その治療方針決定や治療後の評価において超音波検査が重要な位置を占めることが多い。そういった新技術についても、その臨床的意義から実際の評価法までわかりやすく解説されている。

本書は、日本超音波学会理事長経験者である増田喜一、遠田栄一両先生の編著によるものである。両先生は、日々の検査、学術活動だけでなく、超音波検査のレベルアップに寄与され、全国で多くのエキスパートを育てられた日本を代表する超音波検査の重鎮である。その両先生が選抜かれた執筆陣に、各々の得意分野をあてられた。見ると、毎年千人以上を動員する日本心エコー学会主催の講習会にて、講師として登場するメンバーがほとんどである

ことに気づく。この講習会では、毎回参加者にアンケートをとり講演ごとに採点が行われ、評価が低い講師は次年の講演機会がない。このようなシビアな世界で常に評価を受け続けている心臓超音波検査のプロかつプレゼンテーションのプロの執筆者が担当された心臓超音波の技術書である。掲載された写真の質は、当然のようにどれも素晴らしい。診断価値のある美しい写真は、幾多の文章をこえる説得力がある。また、図表のまとめ方もわかりやすい。文章も、日々の経験と論文的考察がミックスされ説得力をもつ。ページをめくるのが楽しみだ。

これから検査を習得しようとする方は、まずは初項から読んでいくとよい。また、美しい図表とその注釈を読むことだけでも、多くの情報がすばやく吸収できるはずだ。検査に従事されている方は、検査時やレポート作成時に必要な項目のみをチェックする辞書のような使い方もできる。本書の奥深さに驚く。増田先生、遠田先生より、何度も加筆等、修正要請があったと聞く。そのため、1冊の書籍としてとてもまとまりある出来栄えとなっている。

本書は、超音波検査室に常備しておくべき書であるし、これから心臓超音波検査を志す者にとっては自分の書として手に入れ、読み倒し、線を引き、メモを書き込んで座右の書としていただきたい。きれいに飾っておく書ではない。

(京都大学医学部附属病院 検査部 佐藤 洋)  
<B5判/330頁/定価7,980円(本体7,600円+税5%)/医歯薬出版/2009>